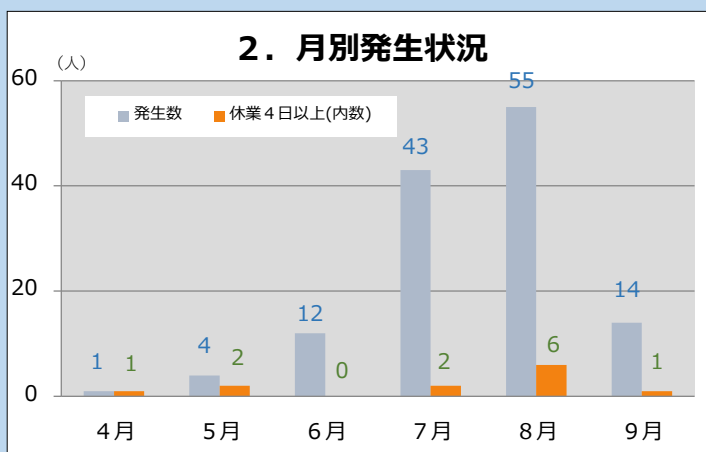
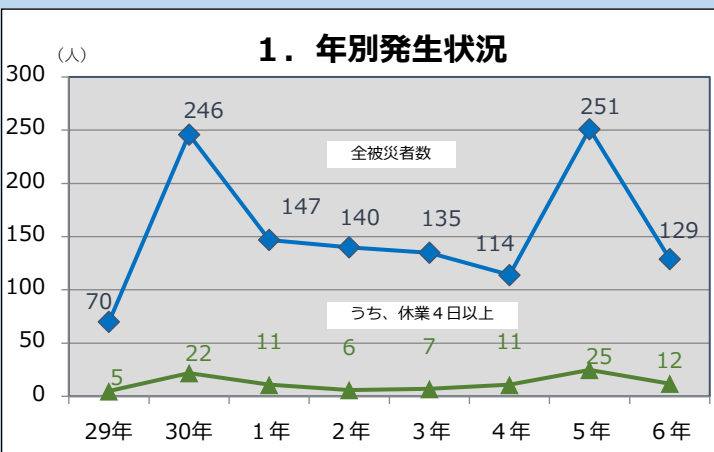


令和6年における 熱中症による労働災害発生状況

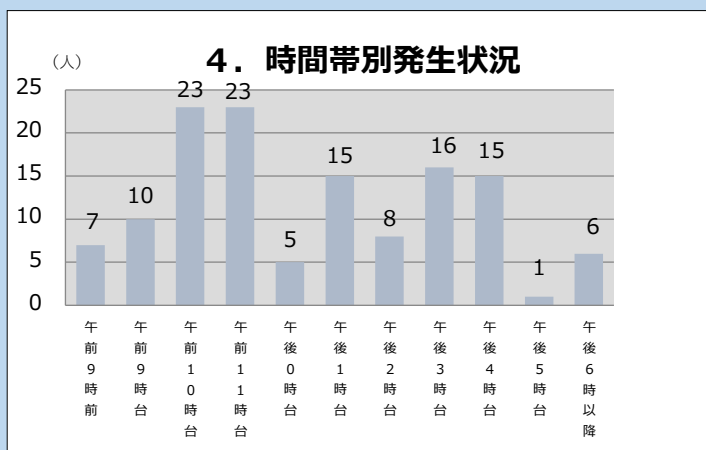
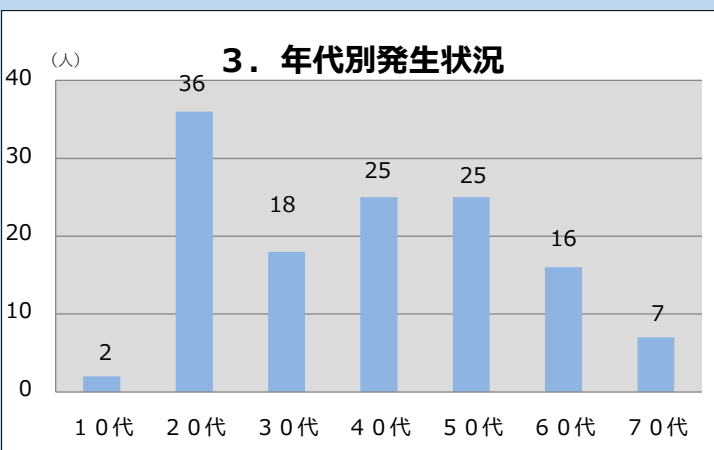
(令和6年1月から令和6年12月)

熱中症による不休も含む労働災害被災者数は129人
うち休業4日以上労働災害被災者数は12人



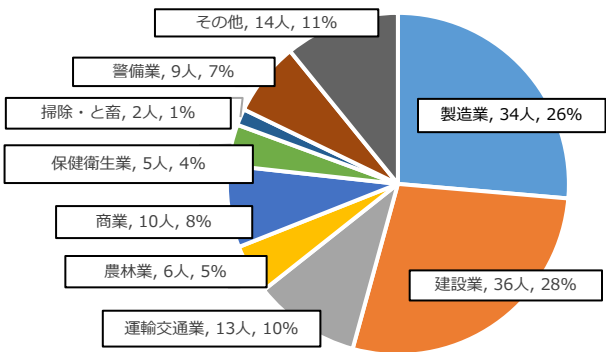
令和6年は不休を含む被災者数は129人、うち休業4日以上の被災者数は12人となり、猛暑の影響により熱中症による労働災害過去最多となった令和5年の半数近くまで減少しました。熱中症による死亡労働災害は平成29年以降発生しておりません。

令和6年における熱中症による労働災害被災者を月別に分類すると、8月が55人と最も多く、次いで7月の43人となっており、この2か月で全体の76.0%を占める結果となっています。

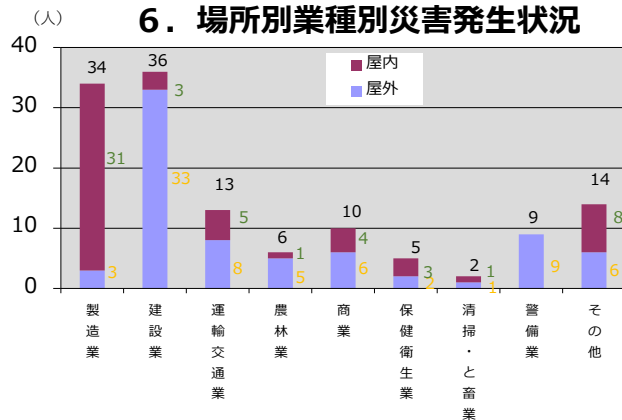


年代別の熱中症による労働災害被災者数では、20代が36人と最も多くなっており、次いで40代50代の25人、30代の18人、60代の16人などとなっており、年代別では若年層の発症が多くなっています。時間帯別の熱中症による労働災害被災者数では、10時台、11時台が23人と最も多くなっており、次いで15時台の16人、13時台、16時台の15人などとなっています。1日の気温が最も高くなる13時台から14時台より、朝の涼しい時間帯から気温が上昇しはじめる10時から11時台に熱中症が多く発生しています。

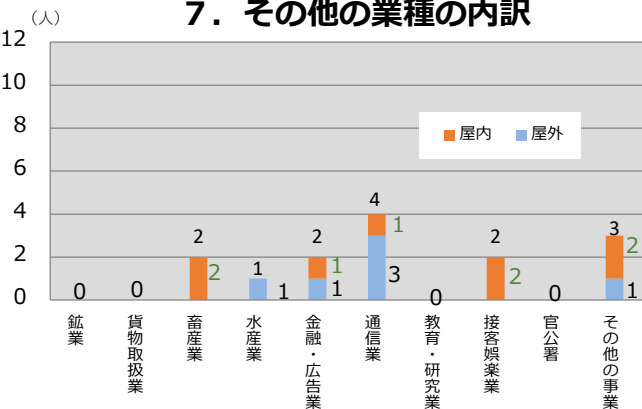
5. 業種別発生状況



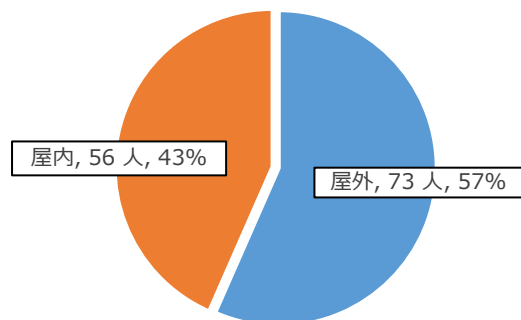
6. 場所別業種別災害発生状況



7. その他の業種の内訳



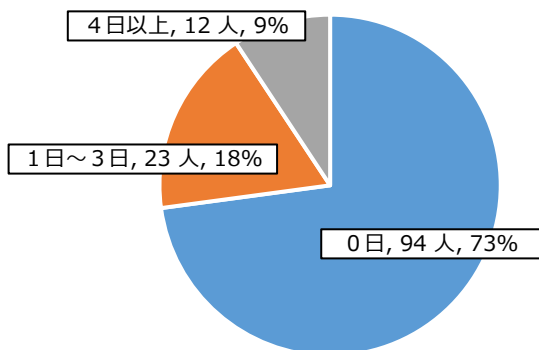
8. 場所別災害発生状況



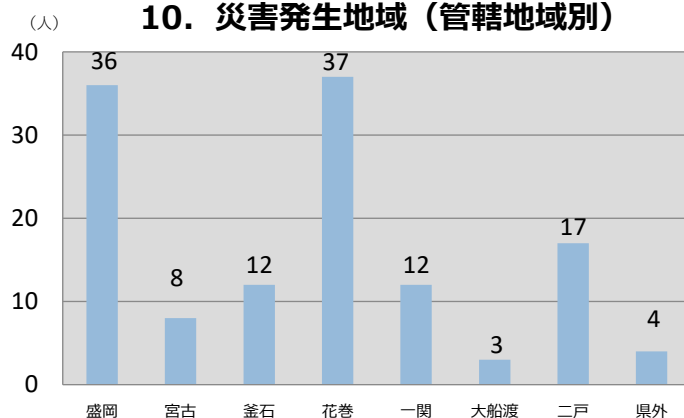
業種別の熱中症による労働災害被災者数では、建設業が36人と最も多くなっており、次いで製造業の34人、運輸交通業の13人、商業の10人などとなっています。建設業や警備業など屋外作業が主となる業種のみならず、製造業や商業においても多く発生しています。

全業種をまとめた作業場所別の割合では、屋外作業が73人、屋内作業が56人と屋外作業中の熱中症発症が57%を占める結果となっています。

9. 休業日数



10. 災害発生地域（管轄地域別）



令和6年の熱中症による労働災害被災者の被災程度では、不休が94人と最も多くなっており、次いで休業1日から3日が23人と、比較的軽度な熱中症が多くなっています。熱中症による死亡労働災害の発生はありません。

県内7か所の労働基準監督署管内別では花巻署管内が37人と最も多く、次いで盛岡署管内の36人、二戸署管内の17人などとなっています。